

講座

Web 広告

村山 哲治

マーケティング施策の前に サイトの常時SSL化が 急がれる

■ Web サイトは、フォームのSSL化だけでは済まなくなった

先日、あるSSLベンダーが主催するサイトの常時SSL化に関するセミナーに出席しました。100名ほどの会場は満員でいかにも技術職という方ばかりかと思いきや、年齢層も若手からベテランまで幅広く、女性の姿も目立ちました。恐らく営業部門やマーケティング部門などWebに関わる広い部門から参加されたのではないかと思います。

それだけこのサイト常時SSL化という問題は、Webのさまざまな部門に関わりがあり、その対応が急がれている状況を肌で感じました。

SSL (Secure Sockets Layer) とは「問い合わせフォーム」「ネットショッピング決済」「ログインページ」などで入力される個人情報を暗号化して送受信する際のプロトコルのことで、これまで多くのサイトではそうした個人情報のやり取りが発生するページのみSSL化してHTTPSにしてみました。

しかしそれが、Webサイトのすべてのペ

ージをHTTPS化する「常時SSL」化が求められており、当社でもクライアントからの問い合わせがここ最近急に増えており、対応に追われている状態です。



■ アクセスフリーな時代背景からサイトの安全性強化が求められる

なぜ個人情報を扱うページだけでなく、サイト全体のSSL化の対応が必要になったのでしょうか。じつはこの問題は急に降って来たものではなく、遡ること5年前の2014年にGoogleが常時SSL化したHTTPSのサイトを検索結果で優遇するロジックを実装したころから始まったもので、決定的な出来事は今年の7月にリリースされるGoogleのブラウザ「Chrome 68」においてURLのバーに常時SSL化されていないHTTPサイトには「このサイトへの接続は保護されていません」という警告が表示されるようになったことです。それに追随するブラウザも増えており、つまりそれだけWebの全てのデータに対してセキュリティーの強化が求められる流れになっているのです。

これまでの個人を特定する情報（住所や年齢、クレジットカード情報）だけではなく、Webサイトとユーザーの間でやりとりされる情報（Cookieや検索ワード閲覧履歴）も個人情報と解釈されるようになります。ネットへアクセスするデバイスもスマートフォンやタブレットと多様化し、Wi-Fiを通じたアクセスフリーな無線回線が広まると「盗聴」「なりすまし」などサイトの情報そのものが危険性にさらされている時代となったいま、個人情報の保護だけがSSLの保護対象では収まらなくなっているのです。こうした背景から、常時SSLによる安全性の強化が求められているというわけです。

■ 常時SSL化を行う六つのメリット

では常時SSL化することによってサイト運営側にはどのようなメリットや効果がある

のでしょうか。

整理してみるとおおよそ、六つのメリットがあります。

1. セキュリティー

常時SSL化によって、ユーザーの入力した情報を保護したり、通信内容の盗聴を防いだりするだけでなく、所在の明確な運営者による正規のWebサイトであることを示し、改ざんや成りすましを抑制することができます。

2. 信頼性

SSL化するとアドレスバーにもその安全性が示されるほか、SSLの証明書（バナー）をサイト上に表記することで視覚的にもユーザーに対して安全性をアピールし、信頼性を訴求することが出来ます。

3. 通信の高速化

これまでSSLを入れると表示が遅くなるといわれてきました。しかし、今ではその評価は真逆のものとなっており、SSLを入れることによって現在の通信規格のHTTP/2プロトコルに対応することができ、それによって表示速度が50%~70%程度向上することが期待できるといわれています。

4. SEO対策効果

Googleが2014年から、HTTPSサイトの検索順位を優先するロジックを組み込んだことによりSEO効果が期待できます。ただSEOには数多くのレギュレーションがあり、このSSL化はその中でそれほど優先順位が高いわけでもないようなので、SSL化されていない同様のコンテンツサイトと比較した場合は、それらより上位に表示される程度に解釈しておいた方が良いでしょう。

5. リファラ情報の取得

リファラ情報とはアクセス解析を行う際の重要なデータで、ユーザーがサイトに訪問する直前にどのサイトから来たかという情報です。HTTPSのサイトからHTTPのサイトに遷移した場合は、リファラ情報が送信されませんが、常時SSL化（HTTPS）にすることで、多くのリファラ情報をマーケティングに活かすことができます。

リファラ情報の送信		訪問先	
		HTTP	HTTPS
訪問元	HTTP	○	○
	HTTPS	×	○

6. Webアプリの開発効率化

フォーム部分だけなど、SSLを部分導入するとHTTPとHTTPSのページが混在し、ページ間のリンクのパス指定やCookieの設定など管理が複雑になりますが、常時SSLにすればページ間のリンクは相対パスで統一でき、Cookie受け渡し処理などがシンプルになり、アプリ開発などが効率化されます。

■常時SSL化で検討すべき点

結論からいうと、この常時SSL化は優先順位も重要度も高い施策として、私はマーケティング施策を検討するよりも早く取り組むべきだと思います。

デメリットはないのかと問われると、ないと断言できます。ただし、注意しなければならない点はいくつかあります。

ひとつはコストの問題です。例えばこれまで、レンタルサーバーの無料で使える共用SSLを問い合わせフォームだけに使っていたようなサイトであれば、それを解約して新たにSSLを独自に契約しなければなりません。一般的にメジャーなSSLベンダーのものを使用した場合、年間で5万円前後します。しかし、レンタルサーバーによっては独自のSSLを無償で提供しているところもあり、サーバーのリプレイスから検討することも必要になってくるでしょう。

SSLの導入に伴い、サイトの構成や仕様を見直し、この機会にリニューアルを検討することもタイミングとしてよいかもしれません。また、常時SSL化に伴いURLがhttp:から、https:に変わりますので名刺やパンフレットなど紙媒体での表記を変えておく必要があります。

その他技術的にも解説したい点がありますが、まずはこの辺を押さえておくことが必要でしょう。

(東京ドアーズ/人間力教育センター代表)